

難防御獣類の安全で効率的な捕獲手法の開発

果樹試験場・林業試験場

【研究期間】

平成 24～26 年度

【研究の背景とねらい】

ニホンジカ（以下シカ）による農林業被害対策として、捕獲により頭数を大幅に削減し、その状態を維持していくことが求められていますが、将来の銃猟者の減少は避けられない状況にあります。そのため、銃に依存しないシカの安全で効率的な捕獲技術の開発が急務となっています。

【研究の成果】

1. 捕獲場所の選定には、低速走行の自動車から高輝度ライトを用いて探索するライトセンサスが有効で、有田地域ではシカが夜間に未利用造成地と耕作放棄地に、西牟婁地域では森林の伐採跡地・新規植栽地に集まっていました（図 1）。
2. シカの嗜好性は調査地域によって異なるため、誘引エサの選定にはエサ試験が有効です。今回の調査地では、飼料のヘイキューブ（牧草を押し固めたもの）が誘引エサに適していました（データ省略）。
3. 調査地に出没するシカの集団は、ほとんどが 3 頭以下と小規模でした（図 2）。捕獲には 4 × 4m 程度の小型の囲いワナが適していると考えられました。
4. 囲いワナ内に、シカが複数頭入り誘引エサを食べ続けるまで十分に餌付けできていることをセンサーカメラ等で確認したのち捕獲を開始すると、捕獲されたシカを囲いワナの外から見ているシカをも 1～3 頭ずつくり返し捕獲することができました（図 3）。

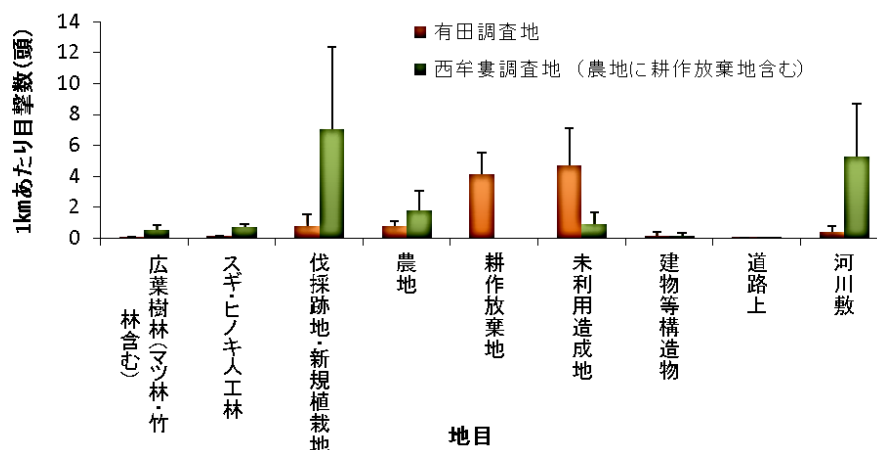


図 1 ライトセンサスにおける地目別のニホンジカ目撃数

注) エラーバーは標準偏差を示す

調査方法: ライトセンサスは、H24 ～25 に夜間決まったルート約 40 km を低速走行する自動車から高輝度ライトを用いてニホンジカを探索。地目は 100m おきに目視で占める割合が高いものに分類。

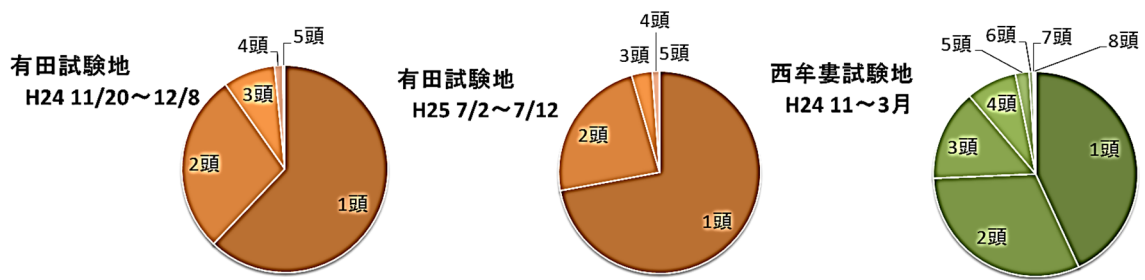


図2 ニホンジカのエサ試験において同時に撮影された頭数の割合

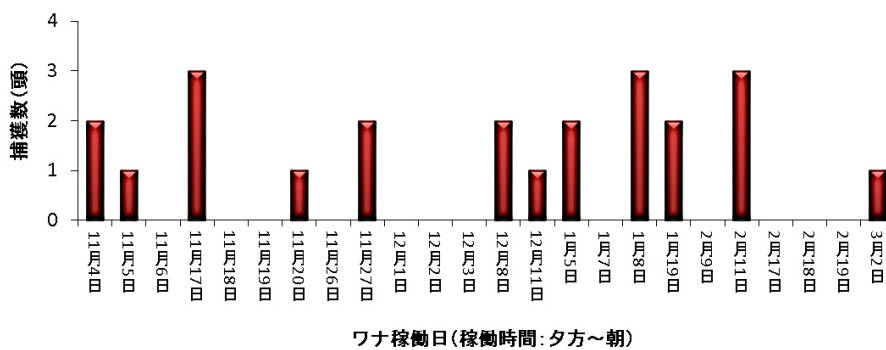


図3 有田調査地におけるニホンジカ捕獲状況

注) 捕獲期間: H26 11/4~H27 3/2(24 晩稼働、23 頭捕獲)

試験方法: ニホンジカ目撃数の多かった未利用造成地で、H26 10/20 からヘイキューブを用いて餌付けを開始。10/24 に囲いワナ内部(4×4m)にシカが複数頭入りエサを食べたことを確認(H24~26 に時々試験でヘイキューブを給餌したため餌付け期間が短縮された可能性がある)。イノシシ用電子トリガー(開発中)を10/29 に設置し、11/4 から稼働。

[成果のポイントと活用]

1. ニホンジカを囲いワナで捕獲するためには、地域内での生息場所の把握と誘引エサの選定が重要で、十分な餌付け後に開始すると効率的に捕獲できることがわかりました。
2. ニホンジカの生態は地域性が強く、和歌山県内でも地域によって食性や集団規模が異なるため、捕獲に際してはライトセンサーや予備的な餌付けで捕獲場所の適否を確認して下さい。
3. ライトセンサーは、ハンディタイプかつ高輝度(1,000 Lumen 以上)のLED ライトやサーチライトを用いると、シカの判別が容易です。
4. エサ調査や捕獲は、赤外線センサーカメラで観察しながら実施すると状況を正確に判断できます。なお、ヘイキューブは30kg で3,000 円程度です。
5. カンキツの枝葉はヘイキューブと同程度好んで食べるため、捕獲を実施する前に周辺のカンキツ園は防護柵を設置し適切に管理して下さい。

(問い合わせ先 0737-52-4320)